

中学校英語科における知識・技能の活用を 図ることをねらいとした問題の作成

【総括研究担当者】高屋 敷一博 安部 広一

【英語科研究担当者】村上花恵 上柿 剛 遠山秀樹

【この研究に対する問い合わせ先】

TEL 0198-27-2735 FAX 0198-27-3562

E-mail kyouka-r@center.iwate-ed.jp

1 基礎・基本の定着について

本県の義務教育では、「すべての児童生徒一人一人に基礎・基本の定着を実現していく」ことを目標にしています。

本県においては、「基礎・基本」を、読み・書き・計算といった学習基盤の育成及び各教科等における基礎的・基本的な知識や技能の習得とともに、その知識や技能を活用して人間として社会人として生涯学ぶことができ、自らの人生を切り開いていくために必要な能力（思考力、判断力、表現力等）ととらえています。

（「平成 22 年度学校教育指導指針」より）

2 「活用問題」とは

「活用問題」とは、学習指導要領を基に、知識・技能を活用して、思考力、判断力、表現力等を育むことを目的とした問題です。

そのために、「活用問題」は、必要な情報を取り出したり、根拠を持って考えたり、自分の考えを説明したりするなどの言語活動に取り組みよう構成しています。

生徒は、授業や家庭学習などで「活用問題」に繰り返し取り組むことにより、知識・技能を活用することに習熟していきます。

また、教師は、生徒の解答状況から、授業実践を振り返ることにより、授業改善につなげることができます。

3 中学校英語科における「活用問題」

英語科における「活用」とは？

英語を用いた言語活動そのものを指します

英語科の「活用問題」とは？

言語活動に問題の形式で取り組むことを可能にしたものです

単元ごとに 1年生 18問
2年生 15問 **全45問**
3年生 12問

言語活動の充実
を意識しています

- ・身近な場面設定
- ・統合的な言語活動
- ・既習事項の活用
- ・場面・状況に合った適切な表現の選択
- ・気持ちや考えを伝え合う活動

言語活動のプロセス
に沿った問題構成です

- ①場面や状況の把握
 - ②情報の取り出し
 - ③情報の整理
 - ④英語での表現
- PISA 型読解力の「受信→思考→発信」の学習プロセスを意識

目指す生徒の姿

英語を使う場面で
学習した英語の知識・技能を使って
思考・判断しながら言語活動を行い
自分の気持ちや考えを英語で**表現**し
伝え合うことのできる生徒

基礎・基本の定着

4 英語科「活用問題」の実際

問題

問題は、教科書の単元に対応しています。言語活動のプロセスに沿った構成で、「読んだことについて書く」のような統合的な言語活動に取り組む内容です。

正答例と解説

生徒の自己採点や教師の事後指導のために、それぞれの問題について「正答例と解説」を作成しました。採点や事後指導をする際には、英語としての正しさだけに注目するのではなく、次のことについても大切に考えます。

- テキストの情報に基づいた表現になっているか
- 場面や状況に合った適切な表現か
- 既習事項を活用できているか

「正答例と解説」は、四つの部分で構成されています。



7 スミス先生の家族

目標タイム：15分
実施の目安：1年 Unit6～

英語の時間に、スミス先生が家族の写真を見せてくれました。みんながいろいろ質問しています。先生とみんなの対話を読んで



生徒1 : How many *children do you have?
Mr. Smith : I have three children. This is Emily. This is Mike. And this is David.
生徒2 : Does Mike play tennis?
Mr. Smith : No, he doesn't. He plays baseball. He is a very good player.
生徒2 : Is he a high school student?
Mr. Smith : Yes, he is. He speaks Japanese very well.
生徒3 : Is Emily a high school student, too?
Mr. Smith : No, she's not. She is a teacher. She lives in America.
生徒4 : What does she teach?
Mr. Smith : She teaches music. She plays the piano very well.
生徒5 : Does Mrs. Smith have a dog?
Mr. Smith : Yes, she does. She likes animals.
生徒6 : What animal does she like the best?
Mr. Smith : She likes dogs the best.

* children 子ども(複数形)
* the best 一番

タイトル
問題文

テキスト

1 クラスのみんなとスミス先生の会話からわかったことを表の①～⑤の欄に日本語で記入し、スミス先生の家族について表にまとめましょう。

名前・年齢	職業など	住んでいるところ	好きなもの、得意なことなど
Mr. Smith (47)	中学校の先生 (英語)	日本	・ギター演奏 ・キャンプが趣味
Mrs. Smith (45)	主婦		①
Emily (23)	学校の先生		②
Mike (17)	高校生	日本	⑤
David ()			

設問 1

2 上の表を完成させるために、あなたもクラスのみんなに続いて、デイビッド (David) のことについてスミス先生に質問してみましょう。質問は3つ以上考えましょう。

① _____

② _____

③ _____

Class _____ No. _____ Name _____

設問 2

7 スミス先生の家族 正答例と解説

問題を解くために

- ① 誰のことを話題にしている部分なのかに注意して会話を読む
 - ② 読み取った情報が表のどの欄に当てはまるか整理する
- ① 何のことについて質問するか、表の項目などを参考に決めてみる
 - ② 写真、会話文、表の情報などを参考に、具体的な質問の内容や英文を考える

正答例

正答例を通してより多くの表現に触れ、学ぶことができるよう、模範解答をできるだけたくさん示しました。

<職業など>
・ Is he a junior high school student?
an elementary school (小学校)

<住んでいるところ>
・ Does he live in Japan (America)?
・ Where does he live? *Where どこに

<好きなもの・得意なこと>
・ Does he play baseball?
・ Does he speak Japanese?
・ Does he like dogs?
・ What sport does he play?
・ What animal does he like?
*下線部は他のものでも可

STEP UP
「どんな(何の)〜が...ですか。」とたずねる What+名詞(単数)
どんなスポーツが好きですか。 What sport do you like?
何の教科を勉強しますか。 What subject does he study?

解説

「活用」の視点から言語活動について解説しています。文法や語彙などの解説は別枠で囲み、復習への橋渡しになるよう単元名を示しました。

生徒の質問はそれぞれ
生徒1 子どもは何人いるか
生徒2 Mikeについて
生徒3, 4 Emilyについて
生徒5, 6 Mrs. Smithについて
たずねています。he やshe の代名詞が誰のことを指しているのかに注意が必要です。

2 表を完成させるために必要な情報は「年齢・職業など・住んでいるところ・好きなもの・得意なこと」などです。Davidについてたずねる時には、主語が三人称単数であることに注意しましょう。

* 主語がI, you以外(三人称)で単数
動詞に s または es がつく
疑問文では does を使い動詞は原形
否定文では does not + 動詞(原形) → Unit 6
写真の情報から、「野球」「年輪」などが話題にできそうです。他の家族の情報からは、「日本語が上手か」「犬などの動物が好きか」などの質問も考えられます。もちろんそれ以外のことについてたずねてもいいのですが、話の流れに何の関連もない話題についていきなり質問されると、答える方も混乱しますね。

STEP UP

発展的な表現や効果的な文章構成などを紹介し、言語活動の質を高めるコーナーです。

1 場面や状況の把握

タイトルや問題文などから、場面や状況を把握します。テキストから必要な情報を取り出したり、表現の段階で場面や状況に合った適切な表現を選択したりするための、重要なステップです。

2 情報の取り出し

テキストから問題を解くために必要な情報を取り出します。英文は対話文、説明文、記事、手紙、パンフレットなど多種多様です。また、テキストは英文以外にも、絵、写真、図表、グラフなど様々な形式があります。

3 情報の整理

取り出した情報を整理します。情報を操作しながら、自分の考えをまとめたり、既習事項を想起したりして、表現するための準備を行います。

4 英語での表現

事実・自分の気持ちや考えなどを伝え合うために、英語で表現します。既習事項の活用し、場面や状況に合った適切な表現を選択する必要があります。

言語活動のプロセス

5 「活用問題」の利用について

英語科の「活用問題」は次の二つの点を工夫しています。

教科書単元ごとの問題作成

- ・ 中心となる言語材料が明確になる
- ・ 実施できる時期の目安がわかる

目標タイムの設定

- ・ 10～15 分の設定で授業以外の場面でも利用できる
- ・ 適切な言語処理の目安にできる（実態に応じて変更可能）

「活用問題」は様々な利用の仕方が考えられます。教師が問題のねらいを踏まえ、生徒の実態に応じて工夫を加えることでより効果的な利用が期待できます。

以下に利用の例を紹介します。

授業の中で

● 単元のまとめ

問題は単元ごとに作られています。単元の最後に「活用問題」を位置づけることで、「活用」を意識した授業展開を取り入れた単元の指導構想を立てることができ、学習や指導の振り返りをすることもできます。

● 言語活動のテーマ

「活用問題」を使って授業を展開することができます。「聞く」「話す」の活動を加えたり、ペアやグループの学習形態を取り入れたりすることで、総合的な言語活動に発展させることができます。

● 既習事項の復習

「活用問題」に取り組みせることで、既習事項の総合的な復習をさせることができます。問題の場面設定や設問の条件を変えることで、難易度や活用する知識・技能を変えることができます。

家庭学習で

● 「活用」を家庭学習で

授業で学習したことを、別の場面設定や条件の下で活用させる課題として「活用問題」を利用することができます。週末課題や長期休業中の課題としては、語彙や文法のドリルと併用することで学習効果を高めることができます。

● 授業と連動した家庭学習

「活用問題」を利用することで授業と家庭学習を連動させることができます。授業で「活用問題」に取り組む前に、必要な言語材料の練習や参考になる表現の暗唱などを家庭学習として行わせることができます。また、「活用問題」に取り組むことで明らかになった課題に家庭学習で取り組みさせることで、知識・技能の習得を促すことができます。

研究内容の詳細については、当センターWeb ページ（岩手県立総合教育センターWeb ページ <http://www1.iwate-ed.jp/>）に資料を掲載しておりますのでご覧ください。

作成した「活用問題」については、岩手教育情報交流ネットに掲載する予定です。また、活用問題 CD-ROM を作成し、各市町村教育委員会経由で各小・中学校に配布いたしますので、ご活用ください。